

2012年 インド研修ツアー 感想

2012年11月

青森市 寺山はるみ

この度はツアーを催行して頂き、ありがとうございました。

個人的に海外旅行自体が初めてで、期待と不安の中参加させて頂きました。

インドの気候は、暑くて汗ダラダラのイメージを持っていましたが、朝晩は長袖が必要な程涼しく、乾季ということもあり日中は30度前後まで上がっても、空気が乾燥しているため、心地よく過ごすことが出来ました。

ベナレスで「死を待つ人々の家」を訪ねました。60歳以上の方々が生活を提供しているヒンドゥー教の施設です。生活費は各自ですが、運営は寄付により成り立っているそうです。

ガンジス河では小舟に乗り、昇る朝日を見ることが出来ました。聖なる川と言われるガンジス河。ここで沐浴すると心身が清まると言われ、たくさんのヒンドゥー教徒の方が沐浴していました。

川辺に火葬場があり、人々はここベナレスで死を迎えることが幸せと考え、この地に集まってきます。死を前向きに捉え、穏やかにその日を迎える生活をしていると感じました。

ブダガヤ「現地の幼稚園（印度山日本寺）」視察。

幼稚園、図書館、診療所等が併設されており、宗教は関係なく無料で利用出来る施設だそうです。

幼稚園の子供たちは行儀よく整列し寺院での朝礼に出席していました。

日本的な行事（運動会など）も明るく伸び伸びと参加し学んでいる様子で、微笑ましく視察させていただきました。

しかし、インドでは、小さい頃から家の手伝いをして育つ場合が多く、教育を受けない人もいます。

デリーでは、4～18歳の子供達が学ぶ教育施設で、5～6歳の子供たちとおりがみ作りで交流させていただきました。

子供たちはとても積極的で、分からないことは進んで私たちに声をかけ、興味を持って参加してくれました。挨拶もしっかり出来ていました。

ひとつ出来ると嬉しくて、最終的には子供たちの希望で、難しい鶴に挑戦しました。前向きな姿勢の子供たちから私自身もパワーをいただきました。

いろいろと観光施設や町の様子を見たりすることで、日本との様々な習慣の違いを感じて参りました。

清潔で至れり尽くせりの日本の生活が当たり前と感じてしまいがちですが、決してそうではないし、それが良いとも悪いとも判断すべきではないと思いました。

町の路上にはたくさんの浮浪者がいて、観光客から少しでも金銭を貰おうと手を伸ばしてきます。それは、彼らにとっては、そうするしか生きる手段がない（もしくは知らない）のだと思います。

また、あれほど素晴らしい歴史的建造物や、雄大な自然と土地に、当たり前前にゴミが散乱していることは、日本で生まれ育った自分にとって違和感でした。

現地の人々の意識を変えていくためにも、多くの人々が教育を受けられる社会作りが必要で、そしてしっかりと教育を受けた子供たちが、この国の良さに気付き、守ってくれることを願います。

子供たちの伸び伸びと学んでいる様子は一筋の希望の光に見えました。

このツアーに参加でき、知らない世界を見ることで自分自身の世界も広がりました。

まだまだ半人前であり、今はどのような活動をすれば良いのか分かりませんが、人様や社会の為に出来ることがきっとあると思います。

この貴重な経験を無駄にせず、連盟の活動に生かしていきたいと思います。

誠にありがとうございました。



牛がたくさん居る国でした。乳牛として飼われている牛の他、野良牛も見かけました。動物に対して害を加えることのない国民性のためか、牛の性格も穏やかに感じました。